

(社) 日本原子力学会
第 61 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 24 年 1 月 20 日(金) 09:30~12:00
場 所 福井工業大学 福井キャンパス 3 号館 308 教室
出席者 北村委員長、作田幹事、内山委員、辻委員、中野委員、平野委員、
宮越委員、三好委員、山本理事 (9 名、委員名簿順)

配布資料

- 資料 61-1 第 60 回倫理委員会議事要旨 (案)
- 資料 61-2① 2012 年春の年会(3/19-21)企画セッション提案書
- 資料 61-2② 予稿「原子力のコミュニケーションデザイン—対話と説得の違いを踏まえて—」
- 資料 61-3① 日本原子力学会倫理委員会による工学倫理教育
- 資料 61-3② 講演資料「原子力安全と倫理の関わり合い」
- 資料 61-3③ ケース・スタディ用事例
- 資料 61-4 資料なし
- 資料 61-5 倫理規程検討資料 (第 60 回倫理委員会)
- 資料 61-6 日本原子力学会「2011 年秋の大会」倫理委員会企画セッションの状況

議事

1. 資料 61-1 により前回議事要旨 (案)を確認し、議事 8 項に「また、倫理委員会は独自にセミナー、研修会などを開催し、収支の改善を図っていくこととした。」を追加することで承認された。倫理委員会の具体的な収支改善方策については、別途議論することとした。山本理事から、平成 24 年度予算に関して倫理委員会が事務局業務低減に貢献することについて総務・財務委員会で報告したとの紹介があった。本件は理事会でも報告し、理事から他の委員会へも伝えていただくことをお願いすることとした。矢口様(東京電力)の倫理委員就任については、本人の意思を再確認したので、次回の理事会に諮ることとした。
2. 資料 61-2①②により中野委員から 2012 年春の年会企画セッション最終案についての説明があった。コミュニケーションにおいて、場の設定・デザインと事前のルール設定は非常に重要である。本セッションをより有意義なものとするため、西條先生の予稿を精読し、メールで議論を深めていくこととした。西條先生の紹介文案は平野委員が作成し、先生に確認を頂くこととした。

3. 資料 61-3①③により作田幹事から本日午後開催予定の工学倫理教育に関するプログラムとケース・スタディ用事例についての説明があった。また、資料 61-3②により宮越委員から講演資料の紹介があった。最近の学生は、答えをすぐに求める傾向があるので、問題解決のヒントのみを伝え、じっくりと考えさせることが大切であるとの意見があった。
4. 公益通報に関して議論し、倫理委員会の本件に関する位置づけを再確認するとともに、通報者に対して再度、倫理委員会の考えを学会事務局からメール返信することとした。
5. 資料 61-5 により作田幹事から倫理規程検討資料についての説明があった。資料 61-3 ②は、今後の倫理規程見直しの参考にすることとした。まだ、条文の字句修正に入らず、当面は規程の構造のあり方について、規程の改訂履歴などを参考に議論を進めていくこととした。見直しの方針は、現行条文の修正は大規模なものせず、ミニマムなものとし、懸案となっている課題を入れ込むこととした。本議論は、今後とも継続していくこととした。
6. 資料 61-6 により作田幹事から 2011 年秋の大会企画セッションの状況についての説明があった。委員は本資料についてのコメントを後日、作田幹事に連絡することとした。
7. 次回倫理委員会は、平成 24 年 3 月 20 日（火）09:30～ 福井大学で開催することとした。

以上